

## 市長行政報告

本日、12月市議会定例会を招集いたしましたところ、皆様方にはご多用のところをご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

まずは、本市にとりまして、大変うれしいニュースが続けてありました。

9月9日と10日の2日間、名古屋市において開催された「第5回世界身体障害者野球大会」に、新見市在住の榎原淳幹（まきはらじゅんき）選手が日本代表として出場されました。世界から5チームの参加があり、日本代表チームが、4戦全勝で、2大会連続4度目の世界一となりました。

また、11月11日から9日間の日程で、遠くメキシコにおいて開催された「第14回ソフトボール男子U18ワールドカップ」に、新見市出身の阿曾慣太（あそかんた）選手が日本代表として出場されました。阿曾選手は日本代表のエースとして大活躍され、日本代表が2020年に続き世界一となり、2連覇を達成されました。

両選手の活躍は、新見のスポーツ界に新たな活力をもたらし、若い世代に夢と希望を与えてくれました。両選手の今後ますますのご活躍をお祈り申し上げますとともに、関係者各位に対しましてお喜びを申し上げたいと思います。

次に、全国各地で流行しておりますインフルエンザについてであります。県は、10月5日、県下全域にインフルエンザ注意報を発令し、注意喚起を行っているところでありますが、市内においても学校や施設などで、集団感染が発生するなど、流行拡大が懸念される状況となっております。市民の皆様におかれましては、手洗いやマスクの着用、人混みの回避など基本的な感染防止対策に努めていただきたいと思います。

それでは、前回市議会定例会以降の取組等について、報告をさせていただきます。

はじめに、長引く燃料などの物価高騰対策についてであります。

現在、農畜産業関連では、「水稻肥料高騰対策支援事業」などの事業により、肥料や飼料等の高騰対策を実施しております。また、商工業関連では、燃料高騰対策として、貨物運送事業者に対して「運送事業者緊急支援事業」、空調設備や照明器具を省エネ設備に更新する事業者に対して「中小企業者省エネ設備更新支援事業」を実施し

ております。さらに、医療・福祉・公共交通関連では、医療機関等のエネルギー高騰対策として、「医療機関等エネルギー価格高騰緊急支援事業」、公共交通を担う事業者に対する燃料高騰対策として、「公共交通事業者等緊急支援事業」を実施しております。

それぞれ、10月1日から申請受付を開始しており、実効性のある支援となるよう、早期支給に努めてまいります。

なお、住民税非課税世帯に対して、1世帯あたり3万円を支給する「価格高騰重点支援給付金」につきましては、令和5年10月31日をもって受付を終了し、11月16日現在、3,667世帯に支給いたしました。

続きまして、分野ごとの主な事項について報告をさせていただきます。

まず、「産業・経済」についてであります。

農業振興につきましては、9月12日、新見産ぶどうの約4割を出荷している東京都大田市場において、加藤勝信衆議院議員、JA関係者の皆様とともに、新見産ピオーネのトップセールスを行いました。市場関係者の皆様から、新見産ピオーネに対する高い評価の声を直接伺い、大きな期待をいただいていることを実感したところであります。今後も、ブランド力のさらなる向上に向けて、引き続き支援を行ってまいりたいと考えております。

また、畜産振興につきましては、10月15日、真庭市において、4年ぶりとなる第78回岡山県畜産共進会が開催され、和牛改良の成果を競いました。本市からも12頭が出品され、私も当日、現地で飼育農家の皆様に激励を行いました。審査の結果、6つの出品区のうち本市出品牛が3つの区で優等首席となり、最優秀賞であるグランドチャンピオンも獲得するなど優秀な成績を収め、団体でも平成30年以来の優勝を飾りました。

飼料価格の高騰など畜産を取り巻く環境が厳しい中、日々、飼育農家の皆様や関係機関の皆様が協力し、和牛改良や育成技術を磨いてこられた努力の結果であり、本市の誇りである千屋牛を振興するうえで力強い後押しとなるニュースであると、非常にうれしく感じております。引き続き、畜産業の継続的発展を推進するため、様々な支援を行ってまいりたいと考えております。

次に、商工振興につきましては、「新見市オリジナルICOCA」が運用開始1周年を迎えました。

10月末現在、全市民の85%の皆様がカードを保有され、市内103店舗において、これまで付与した「にーみんポイント」の84%、約3億円分が利用されております。

また、加盟店における電子マネーの利用も、約1億6千万円となっており、市内経

済の活性化が図られているものと考えております。

本年度につきましては、子ども応援事業や、ふるさと定住支援金、読書スタンプラリー、芸備線・姫新線利用促進事業などでの「にーみんポイント」付与事業により、利活用の拡大に向けた施策に取り組んでおります。引き続き、加盟店増加に努め、市内経済の好循環に向けて取り組んでまいります。

次に、10月28日、新見市憩いとふれあいの公園を会場に、新たな「にいみのまつり」として昨年度から始まった、「FAN2023」が開催されました。

当日は、A級グルメを提供するスペシャルダイニングやマルシェ、吹奏楽などのステージイベント、その他各種団体によるワークショップやフリーマーケット、夜には打ち上げ花火などが催されました。情報誌への掲載のほか、ホームページやSNSを通じて、広く情報発信されたことにより、来場者は、昨年度を上回る約1万3千人となり、本市のPR、交流人口の拡大につながったものと考えております。

次に、平成30年に県営新見工業団地に誘致いたしました「株式会社アースクリエイト」の新社屋落成式が、11月10日に行われました。

「食品トレー」などの材料として、環境負荷の低減につながる「炭酸カルシウム」を主原料とした「樹脂複合材料（ストーンシート）」の製造が、11月13日から開始されております。

今後、さらに製造ラインの増設を計画されており、新たな雇用創出につながるものと期待しております。

次に、「健康・福祉」についてであります。

子育て支援につきましては、こども家庭庁が掲げる「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同し、11月17日、新見公立大学、新見商工会議所、阿哲商工会とともに「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行いました。今後も、子育て支援策の充実を図り、こどもたちが健やかで幸せに成長できる社会の実現に向けて取り組んでまいります。

高齢者等の移動支援につきましては、高齢者等タクシー利用助成事業を10月1日から開始しており、今後、利用状況やタクシー事業者の意見などを参考にして、より良い事業となるよう取り組んでまいります。

次に、「教育・文化・スポーツ」についてであります。

ドローンプログラミング教育につきましては、本年度から、市内の全小中学校で実施しているところではありますが、10月31日、新見第一中学校において、県教育委員会、地元企業、新見高等学校関係者とともに、授業を視察いたしました。

県教育長からは、本市の小中学校におけるドローンプログラミング教育が、子どもたちの興味ややる気を引き出す「学びの原動力」となっていることを高く評価いただ

きました。併せて、新見高等学校ゼロハンカー部を訪問し、新見民間車検工場会など民間の協力も得ながら、熱心に活動する様子を視察いたしました。

今後も、それぞれの取組の発展に向け、関係機関が継続して意見交換を行うとともに、地域ぐるみで高校魅力化に取り組んでいくことを確認いたしました。

文化振興につきましては、9月29日、方谷祭り in 大佐が4年ぶりに開催され、山田方谷先生の直系子孫で大佐山田方谷記念館名誉館長の野島透（のじまとおる）氏による講演をはじめ、野島氏から寄贈を受けた備中松山藩主で江戸幕府の老中首座を務めた板倉勝静（いたくらかつきよ）の書などが披露されました。

また、本市が全国に誇る特産品「千屋牛」のルーツとなる「竹の谷蔓牛」を題材にした絵本が完成し、11月12日、原画を作成された絵本作家の本田哲也氏によるワークショップや原画の展示など、完成イベントを開催し、多くの方にご来場いただきました。

スポーツ振興につきましては、9月29日から10月1日までの3日間、憩いとふれあいの公園を会場に「第56回日本女子ソフトボールリーグ第4節岡山大会」が開催され、サファイアセクションの全6チームによるハイレベルな戦いが繰り広げられました。

また、試合の合間を利用して、市内小学生を対象に参加チームの選手によるソフトボールクリニックが行われ、子どもたちにとって観ることだけでなく、レベルの高い指導を受けることのできる貴重な機会となりました。

今後も、全国規模の大会を誘致するなど、幅広い世代の方が生涯スポーツとして親しむことができるよう、取り組んでまいります。

次に、「安全・生活基盤」についてであります。

防災につきましては、11月19日、新見南中学校と新見市防災公園多目的広場において、岡山県との共催により総合防災訓練を実施いたしました。市や県の職員をはじめ、自主防災組織、消防団、社会福祉協議会など防災関係団体から約550人が参加して、ドローンによる情報収集、本年2月に配備したブーム付多目的消防ポンプ自動車やヘリコプターによる人命救助、避難所の開設運営などの訓練を行い、災害対応能力の向上と災害時の連携体制の強化を図りました。

また、11月20日には、消防庁舎建設工事の安全祈願祭が行われました。あらゆる災害から市民の暮らしと命を守るため、消防・防災の拠点施設として新しい消防庁舎の整備を進め、令和6年度末の完成を目指してまいります。

次に、「都市基盤・交通」についてであります。

公共交通につきましては、新見市地域公共交通会議で提案しておりましたバス路線

の見直しやバス停の追加等が、10月の備北バスのダイヤ改正に合わせて行われました。

また、予約型乗合タクシーにつきましては、神郷・新見北部地域での本格運行に続き、11月から大佐地域で実証運行を開始しております。引き続き運行事業者と連携しながら利便性の向上に努めてまいります。

鉄道の利用促進につきましては、10月14日の鉄道記念日に合わせて新見駅開業95周年のPRを行い、28日には団体貸切列車「ハローキティはるか号」の来新を歓迎するなど、JR西日本と連携して各種取組を進めております。また、31日には本市においてJR姫新線沿線自治体会議を開催し、同路線へのICOCA等交通系ICカードシステム導入に関する要望について協議し、11月29日にJR西日本岡山支社へ要望書を提出いたしました。

JR芸備線の再構築協議につきましては、10月13日付けで国土交通省から意見聴取があり、本市といたしましては、国に参画いただきながら、既に設置されている法定協議会において協議したい旨、11月27日付けで回答しております。

新見駅周辺まちづくりにつきましては、官民の幅広い関係者が参画し、地域の将来像や課題解決について議論する場となるプラットフォーム「新見駅周辺みらいプロジェクト」を9月26日に設立し、設立記念フォーラムを10月14日に開催いたしました。この組織と連携しながら、まちづくりに対する機運の醸成を図り、にぎわい創出に取り組んでまいります。

次に、「環境」についてであります。

脱炭素社会の実現に向けた取組につきましては、個人向け施策として、省エネ家電買替支援事業を実施しておりますが、10月10日、市内企業向けに省エネ・脱炭素セミナーを開催いたしました。このセミナーでは、経営改善につながる省エネ診断などの脱炭素と経営改善をあわせた脱炭素経営の取組について説明を行いました。今後、公共施設、家庭、企業のあらゆる場面で、脱炭素社会の実現に向けた施策を積極的に実施することで、ゼロカーボンシティの実現につなげてまいります。

次に、「交流・コミュニティ」についてであります。

国際交流につきましては、10月8日、関係者の出席のもと「ニューパルツ姉妹都市締結25周年記念式典」が開催されました。

これは、新見市国際交流協会がニューパルツ国際交流協会デイブ・カッカモ会長をお招きし実施したもので、式典では旧大佐町時代からの交流の足跡を振り返ったほ

か、当時の写真パネルも展示されました。

また、ニューパルツビレッジのティム・ロジャース市長もオンラインで参加されており、お互いにこれまで築いてきた交流の絆を広げ、将来に引き継いでいくことを確認したところであります。

その後、10月23日、ロジャース市長はご家族で来新され、直接お会いすることができました。その際には、お互いの地域の暮らしや自然環境、今後の交流などについて話し合いました。市内滞在中には、新見公立大学の英語授業へ参加されたほか、満奇洞などの市内観光施設や新見市消防署などを訪問され、25日に帰国されました。

私といたしましても、姉妹都市との相互交流を一層深めるため、ニューパルツビレッジへの訪問について、準備を進めてまいりたいと考えております。

地域おこし協力隊につきましては、11月15日、本年度の地域おこし協力隊活動報告会を開催いたしました。現在活動中の協力隊3名から活動状況等を報告いただきました。

この報告会を通して、各隊員のユニークな活動や多方面での活躍を知ることができ、今後の展開についても大きく期待しているところであります。

引き続き、隊員の活動内容を広く周知するとともに、隊員それぞれの活動を支援してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、11月5日、まなび広場にいみ大ホールにおいて、市民栄誉賞を受賞された中川博之氏の功績を称える「中川博之メモリアルコンサート」が開催されました。当日は、市内外から大勢の方がお越しになり、中川メロディーが永遠に皆様の心に残る素晴らしいコンサートとなりました。

以上、市政運営の状況につきまして主なものをご報告いたしました。引き続き市政の推進にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。